

## 2007年度の、保護者の方と職員の文集から

三人のお子さんがいらっしゃる方です。そして今(平成19年3月)2番目のお子さんがなかの幼稚園の年中(もり組)に在籍していらっしゃいます。

### かみなりぼうや

もり組 子

口より先に手足が出る。家ではさらに泣き叫ぶ。理由を聞いてもだんまりを決め込む…。

そんな との、もりの一年は、母子共に、涙なしでは語れない。そしてそれは現在も進行中だ。

長男が入院した週末、突然夜中に何か不安にかられたのか、ワーワー泣きだした。やっぱり理由は言わないで。

とにかくワーワー泣き続けた。「、今夜はお前に付き合つてやる」と主人。二階の廊下に主人と私、泣き声に起こされた娘、そして の四人が座りこんだ。話しかければ泣き声は大きくなる。それでも待ち続けた。

どれくらいの間が経ったのか。主人は部屋に入ってしまった。外では朝刊を配るバイクの音がした。そして布団の上で、ようやく話し合いに応じてくれた。

「お父さんに言う」「じゃあ言うておいで」と送り出した。

「お父さん…」「何?」「…」「?」「忘れた…」

そりゃそうだろう。こんなに長々と泣けば、理由なんてどこかへ飛んで行っちゃうよ

そしてようやく就寝。ぐっすり眠って、昼近くに起きてきた。

階段を降りてくる足音。「かみなりぼうやが起きてきたぞ」と主人。斜め四十五度に天井を見上げ、大きな目をクルクルと見開いたまま降りてきた。まさに「かみなりぼうや」だ。昨夜のイライラはどこへやら、爆笑してしまった。

毎日毎日クタクタで、たくさん泣いた一年だったけど、やっぱり我が子が可愛い。生意気なことばかり言っているも、コアラのようにしがみついている時は、やっぱりこの子を産んで良かった、と思う。走るのも速くなつたし、カエルが並んでいた絵も、ちゃんと生き生きとした人間になつて、何も見なくても素敵なライオンだつて描けるようになった。そらくみさんに教えてもらつて、ホルルの掃除も頑張っていたし。本当に少しずつだけど、自分の気持ちを口に出す努力もしているね。

そして最後に。  
が、毎日楽しく園へ通う事が出来るのは、先生とお友達のおかげです。いつも根気よく に付き合ってくれて、ケンカしてもすぐ仲直りしてくれて、泣いていたら心配してくれて、優しく抱っこしてくれる…。

本当に、なかので良かった。  
書きながら、また泣けてしまいました。